

資料 1

草津市幼保一体化検討委員会主な意見のまとめ（第4回の振り返り）

項目	内容
こども園の地域性	保護者にとって大切なのは、友達の有無や、家から近い、迎えに行きやすい、職場から近いという便利さだったりする。どの地域にどれくらいこども園ができるのか、できるだけ早く知りたい。
就労を伴う保護者の幼稚園教育ニーズへの対応	就労を伴う保護者の幼稚園教育の希望は、年々ニーズが高くなってきており、幼稚園がどのように対応していくかを考える必要がある。
3歳児への支援等 (教育・教育)	保育所にも幼稚園にも行かない3歳児に対する子育て支援の充実は必要。
	保育所における3歳児の教育の充実が注目されるのは非常に大事なことだが、部分的に3歳児の保育を幼稚園の中で受け入れることも、保護者の選択肢の一つとして用意することができると良いと思う。
	幼稚園型の幼保一体化が現実的であり、この中に3歳児を含めていく認定こども園のスタイルがよいのではないかと。
	幼稚園での3年保育は、段階を踏まなければいけないもの。まずは、在宅の3歳児の支援や就労も伴う預かり保育の拡充が一番スムーズな線だと思う。
	3歳児保育が実現するとしたら、教員の確保はどうなるのか。各園で職員数が足りていないが、3歳児を預かる余裕があるのだろうか。有資格者の掘り起こし等の人材確保も必要。
	草津市で一番求められているのは、公立の3歳児保育だと思う。ただ、募集人数や校区などの問題も出てくる。保育園に入れたいけれど入れなくて、仕方なく私立幼稚園に入れている人もいる。草津市の公立で3歳児保育が可能にならないのであれば、私立幼稚園に対して市からの援助とかがもう少しあればよいと思う。
	学校教育機能の充実について、民間保育園においても、既に、幼稚園と同じように、就学前の教育はきちんとなされているということは、再度確認しておきたい。
給食の課題	給食の民間委託について、保護者としては、給食室で栄養士が栄養を考えたもの、またアレルギーを持っている子のことを考えて、食事を作ってあげるとするのが理想。給食室の設置はぜひ必要。

項目	内 容
幼保一体化の基本的モデルについて	施設面からは、今ある幼稚園のままではこども園としての受け入れは難しい気がした。3歳児からだったら、何とかいける幼稚園もあるように思う。保育所であれば、3歳児からの教育は実際にされているので、いけるのではと思う。
	幼稚園型の認定こども園は、必ずしも0、1、2歳を引き受けなければならないというわけではない。3歳以上であれば、就労の有無にかかわらず受け入れることになる。
	公立施設の実態として老朽化が進んでいるところもある。そのような近接施設では、一体化の考えもあるかもしれないが、場所や予算的にも難しいのではないか。
	幼稚園型等の展開において、他府県の例にあるような補助金の検討はできないか。
	働いている側としては、保育所モデルが考えやすい。預けやすさの面から、慣れている保育所で、早朝保育や土曜保育、延長保育があり、夏休みが関係なく預けられる環境が必要である。
在宅3歳児の子育て支援や預かり保育の充実	在宅3歳児の子育て支援や預かり保育の頻度を増やしていくことで対応できるのであれば、そのような幼稚園をモデル園として位置づけていくことはできるのではないか。
	公立幼稚園は、4、5歳であるが、預かり保育を現状より拡充していけば、より充実していくと思う。移行モデルとしてはいいのではないか。
	認定こども園ならば、0歳から始めるというのは理想であろう。しかし、現実的には、モデルの「預かり保育の充実」というところで、もう少し人材などを手厚くしていく。ここから始めるほうが現実的。
	幼稚園のモデルとして、預かり保育を増やしていくのであれば、短時間保育担当の先生配置により、充実していくことも考えられる。
	預かり保育について、先生の人数の面など、先生たちがどういうふうに思うかなど、先生たちを基本にした案を作ってほしい。
こども園検討に際して	検討委員会で話すこと、アレルギーの話や預かり保育など、どこまで反映されるのか。実施に取り組み内容として反映されるか不安。
	こども園のハード面を話し合うことも必要かと思うが、保育・教育という面、保育者の理解やその教育、親への説明など、ソフト面をしっかりと力を入れていかないといけない。
付加的な機能	3歳からの幼稚園保育がいいかと思うが、幼稚園でも、幼稚園に預けながら働けるという方が多くなる中で、小学校入学後の受け皿として。将来、認定こども園に学童の機能も持つような形ができればいいと思う。